

第2 見守り活動をめぐる状況

1 高齢者人口、高齢化率等の推移

65歳以上の高齢者（以下本項の1、2において「高齢者」という。）人口は、一貫して増加しており、令和2年に3,603万人となっている。今後も高齢者人口は増加傾向が続き、令和22年（2040年）には高齢者人口が3,921万人となることが予測されている（参考資料－資料①参照）。

また、総人口に占める高齢者人口の割合である高齢化率は、上昇を続け、令和2年は28.6%のところ、令和18年（2036年）には33.3%で3人に1人が高齢者となることが予測されている（参考資料－資料②参照）。

さらに、高齢者1人を支える現役世代（15歳～64歳人口）の数は、減少傾向にあり、令和2年に2.1人となっているところ、令和22年（2040年）には1.5人となることが予測されている（参考資料－資料②参照）。

2 一人暮らしの高齢者数及び高齢者率の推移

一人暮らしの高齢者数は、男女共に増加傾向にあり、令和2年には男性約231万人、女性約441万人となっている。今後も一人暮らしの高齢者数は増加傾向が続き、令和22年（2040年）には男性約356万人、女性約540万人となることが予測されている（参考資料－資料③参照）。

また、高齢者人口に占める一人暮らしの高齢者の割合（以下「一人暮らしの高齢者率」という。）は、上昇を続け、令和2年には男性15.0%、女性22.1%となっている。今後も一人暮らしの高齢者率は上昇傾向が続き、令和22年（2040年）には男性20.8%、女性24.5%となることが予測されている（参考資料－資料④参照）。

3 一人暮らしの高齢者の生活実態

内閣府「令和3年度高齢者の日常生活・地域社会への参加に関する調査」によると、

- ① 60歳以上の高齢者がふだん近所の人とどのような付き合いをしているかについて、一人暮らしの者は、配偶者や子ども等と同居している者に比べ、「外でちょっと立ち話をする」が43.2%、「物をあげたりもらったりする」が38.3%と、割合が低くなっている（参考資料－資料⑤参照）。
- ② 60歳以上の高齢者がふだん親しくしている友人・仲間の有無について、一人暮らしの者は、配偶者や子ども等と同居している者に比べ、「ほとんど持っていないと感じる」が20.1%、「持っていないと感じる」が10.1%と、割合が高くなっている（参考資料－資料⑥参照）。

また、内閣府「平成26年度一人暮らし高齢者に関する意識調査」によると、65歳以上の一人暮らしの高齢者が日常生活全般についてどのような不安を感じているかについて、「健康や病気のこと」を挙げた者の割合が58.9%、「寝たきりや身体が不自由になり介護が必要

な状態になること」が 42.6%と、割合が高くなっている（参考資料－資料⑦参照）。

さらに、内閣府「令和 4 年版高齢社会白書」によると、孤立死（誰にも見取られることなく、亡くなった後に発見される死）を身近な問題だと感じる（「とても感じる」と「まあ感じる」の合計）人の割合は、60 歳以上の高齢者全体では 34.1%となっており、特に一人暮らしでは 50.8%と 5 割を超えている（参考資料－資料⑧参照）。